

10月です。『〇〇の秋』です。

10月になりました。『読書の秋』『食欲の秋』『スポーツの秋』『芸術の秋』・・・、秋は何をするにもしやすい季節です。子どもたちにとっては、どんな秋になるでしょうか。

令和4年度も、折り返し地点になりました。1学期は、新学年としての自覚と共にクラス作りに力を入れ、やる気のベースを作りました。2学期は、そのやる気をさらに進め、1学期以上にそれぞれの力を伸ばして欲しいと思います。

『行事は人を育てる』

2学期に入り、各学年の行事や学習をする中で、子どもたちがどんどん成長しています。5年生は自然学校で、協力するすばらしさや人を大切にすること、自分の言動に責任をもつことを学びました。集合や話の聞き方がとてもよくなりました。6年生は修学旅行で、平和について考え、自分にできる平和活動を心がけるようになりました。そして、9月28日(水)には、3・4年生が福祉の学習をし、人を大切にすることを学びました。1・2年生は、9月30日(金)に、おもちゃランドをしました。2年生が1年生を招待して、共に学習をしました。先輩としての2年生が、やさしく1年生に関わっていました。

福祉学習(3・4年生)

9月28日(水)に、加古川市視覚障害者福祉協会より山本さんをお招きして、3・4年生が、視覚障がい者の生活についてお話を伺いました。

山本さんは平荘出身ということで、子どもたちは、山本さんの平荘での思い出についてもお話を伺いました。最後は、山本さんの素敵なピアノを演奏に合わせて、一緒に『校歌』を歌う場面もできました。

私(山本さん)は、平荘の出身です。

来年度で、平荘小学校が終わりになると聞いて、さみしいです。

みなさんもそう思うでしょうし、私もそう思います。

おじさん自身は、平荘小学校には入学していません。盲学校に行きました。JRや山陽電車に乗って、1時間以上かかるところに学校がありました。ふだんは寮生活で、土曜日にならないと家には帰って来れませんでした。



おじさんの小さい頃は、奥新田の人達は、朝早くからバスに乗って学校に来ていました。

陰山や上原の子どもたちは、ずっと歩いて通学していました。

平荘は、いいところです。おじさんの村の人は、おじさんのことを目が見えない人だと意識せずに一緒に遊んでくれました。

昔は、土曜日の昼までが授業でした。土曜日の昼になると、おじさんのお父さんやお母さんが迎えに来てくれました。そして、月曜日の朝に、学校に行っていました。

盲学校では、点字の勉強をしました。

これは、ウクライナの地図です。ベラルーシ、ハンガリー・・・と書いてあります。



★視覚障がい者用の時計、定規、巻き尺、携帯電話等を、紹介していただきました。
 時計は、手で触ると分かるようになっています。携帯電話は、音声で知らせる機能があります。



ヘルパーさんは、同行援護の形でサポートをされています。昔は、視覚障がい者が自分一人で何でもやらなければならなかったのですが、今は、ヘルパーさんにお手伝いをしていただけるようになったそうです。

視覚障がい者のサポートとして、マラソンの伴走者がいます。視覚障がい者は伴走者に紐を持ってもらって後から走っていくそうです。42.195Kmの道のりでも走ることができるそうです。卓球では、転がした球をラケットで打つそうです。中に鉄の球が入っているそうです。

★山本さんは、子どもの頃のお話もしてくださいました。



子どもの頃、ふつうの人は少年団のキャンプに行っていました。おじさんだけは行けませんでした。そんな時、親戚が集まって、近くのブドウ畑で、おじさんだけのためにキャンプをしてくれました。いとも手をつないでいろんなところに連れて行ってくれました。

結局、おじさんの目は治りませんでした。おじさんは、音楽が好きになり、ピアノを弾くようになりました。

山本さんは、『パフ』『天空の城ラピュタのテーマソング』『トトロ』『さんぽ』等、子どもたちに馴染の曲を披露してくださいました。『平荘小学校の校歌』を伴奏していただき、子どもたちも一緒にうたいました。



『平荘行進曲』は、運動会の時に歌っていました。

最後に、視覚障がい者のサポートのしかたを教えてくださいました。
 ①歩行のサポート②信号機を渡す時のサポート③段差がある時のサポート④狭い所を通る時のサポートと、場面を変えながらサポートの練習をしました。

子どもたちは、真剣に話を聞き、サポートのしかたを教えてくださいました。



サポートの際には、相手が何を望んでいるのかを感じることが大切です。

